

医学研究実習（メディカル）

科目責任者 矢澤 卓也

学年・学期 4学年・通年

I. 前 文

本実習は、学生が基礎医学講座教員、臨床医学講座教員、先端医科学研究センター教員、動物実験センター教員、教育開発・国際交流センター教員、もしくは基本医学教員の指導のもと、特徴ある医学研究実習を終日行うものである。

4月8日5限に「医学研究実習（メディカル）オリエンテーション」を行い、各講座から出された特徴ある研究テーマを学生に紹介し、アンケートによる学生からの希望を擦り合わせることで、各学生がどの研究室に配属されるかを決定する。本実習は、実技を通して最先端の生命現象の一端を理解できるようになるために極めて重要である。実技で得られる経験は財産であり、講義で学んだ内容の理解の一助になるとともに、その経験を基にしてさらに医学研究への視野を広げていくことができる。

終了後には実習内容をまとめた動画を決められた時期までに提出する。本学の卒業認定・学位授与の方針として定める最終目標への到達のため、当該実習で学ぶ知識や技能の習得は必須である。

II. 担当教員

基礎医学講座教員、臨床医学講座教員、先端医科学研究センター教員、動物実験センター教員、
教育開発・国際交流センター教員、基本医学教員

III. 一般学習目標

- ・実習を通して人体に関与する生体物質や細胞や個体の理解、疾患の理解を深める。
- ・将来の医学への探究心や学習意欲を涵養する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきであることを説明できる。
- 2) 生命科学の講義・実習で得た知識を基に、病態の解析ができる。
- 3) 患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解につなげることができる。
- 4) 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究（生命科学研究、臨床研究、疫学研究等）に参加することができる。
- 5) 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
- 6) キャリア開発能力を獲得する。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2: ディスカッション、ディベート 3: グループワーク 4: 実習、フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1-7	6	9	火	1-7	医学研究実習（メディカル）	配属先教員	4
8-14	6	10	水	1-7	医学研究実習（メディカル）	配属先教員	4
15-21	6	11	木	1-7	医学研究実習（メディカル）	配属先教員	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
22-28	6	12	金	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
29-35	6	16	火	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
36-42	6	17	水	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
43-49	6	18	木	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
50-56	6	19	金	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
57-63	6	22	月	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
64-70	6	23	火	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
71-77	6	24	水	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
78-84	6	25	木	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
85-91	6	26	金	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
92-98	6	29	月	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
99-105	6	30	火	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
106-112	7	1	水	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
113-119	9	24	木	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
120-126	9	28	月	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
127-133	9	29	火	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
134-140	9	30	水	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
141-147	10	1	木	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
148-154	10	5	月	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
155-161	10	7	水	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
162-168	10	8	木	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4
169-175	10	9	金	1-7	医学研究実習 (メデイカル)	配属先教員	4

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

評価はレポート動画 (mp4形式) (50%), 日々の態度を含めたルーブリック評価(50%)で行う。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

担当する教員から紹介していただく。

なお配属講座決定後は、前もって担当教員と面談する等の準備が必要である。

VIII. 質問への対応方法

担当する教員に質問する。実習期間中は常時質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実験ノート作成について、実習中にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（30分）：翌日に行われる実験手技について予習しておく。

事後学習（30分）：得られたデータをまとめ、考察を行う。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01, PR-02, PR-03, PR-04, LL-01, LL-02, RE-01, RE-02, RE-03, RE-04, RE-05